

「新・私が決める尊厳死」発刊を記念して

第1回日本リビングウイイル研究会

を開催します。終了後、懇親会を予定しています。

日時 2013年6月9日(日) 午後1時~午後4時15分

会場 政策研究大学院大学 想海樓ホール
東京都港区六本木7-22-1
(地下鉄:都営大江戸線・日比谷線六本木駅、千代田線乃木坂駅徒歩数分)

定員 300人(お問い合わせ、申し込みは本部事務局まで)

プログラム(仮)

午後1時 開会・あいさつ 岩尾 總一郎(理事長)

午後1時15分 講演 「LW一日米での経験から」

松尾 幸郎(会員、富山)

午後2時30分 シンポジウム 「私が提案する終末期」

「新・私が決める尊厳死」著者数名によるディスカッション

午後4時15分 閉会

一般社団法人 日本尊厳死協会

ラジオ 深夜便で

長尾副理事長

200万人リスナーに平穩死、
尊厳死協会、反響も大きく

夜も明けやらぬ午前4時すぎ、NHKラジオ深夜便(2月9日放送)の「明日への言葉」で、長尾和宏副理事長のインタビューが流れた。不治の病で死を考えるとときに、誰もが願うのが自然に穏やかな旅立ちである「平穩死」とは何か、そして日本尊厳死協会の存在を伝える「ことば」が45分間、電波に乗った。反響は大きかった。

高齢者を中心に毎晩深夜からラジオを聴くリスナーが200万人、300万人といわれる人気番組。兵庫県尼崎市で在宅医療活動もする長尾さんを、「延命治療受けないことも選択肢の一つと考える医師」と紹介した。

長尾クリニックは医師10人、看護師25人らのスタッフが働き、毎日250人の外来患者を診察し、在宅医療で300人の患者を抱える。在宅医療ではまち全体が300の病室を持つ病院と考え、道路は病院の廊下という話がわかりやすかった。在宅という「まちの病院」で700人を看取ってきた。

「末期患者とブドウ糖輸液」では、特にがん患者には「がん細胞に餌を与えているようなもの」という話が強烈だった。延命治療のありようを考えさせられたリスナーが多かったのではないかと。終末期医療での希望を明示することの大切さから、日本尊厳死協会の役割を伝えて協会のPRに一役買った。リスナーから協会事務局に入会の問い合わせが相次ぎ、「長尾さんの話に感銘した」「尊厳死協会のあることを知った」というメールも届いた。